

タウンミーティング 議事要約

テーマ：市川市のごみ処理について

日時：平成30年9月30日（日）午前10時～午前11時30分

場所：男女共同参画センター 7階 研修ホール

参加者：約50人

<1>シルバー人材の雇用について

参加者：

世の中に隠れている、シルバー人材を活用したらどうか。

市長：

就任以来、オープンイノベーションを述べており、自前主義はやらないで、我々の能力は限定されている為、どんどん外からいいものを取り込んでいこうという事を言い続けている。まさにシルバー人材や引退された方の知識や知恵、力を利用するという事はその趣旨に適っていることである。

引退された方、知識を持った方々を行政に参画していただくことは、良い話であるため積極的に制度を考えていきたい。

<2>生ごみの問題について

参加者：

燃やすごみの3分の1が生ごみであるため、資源として生ごみの堆肥化を真剣に考えた方が良い。課題である堆肥の成分を一定する件については、全国でやっている自治体もあるため参考にされた方が良い。

埼玉県戸田市では、別のやり方として参考になる。家庭にコンポストの容器とぼかしを貸し出しており、そこに生ごみを入れ、堆肥化したものをリサイクルフラワーセンターに持って行くと花苗と交換してもらえる。持ち込んだ、堆肥で花苗を育てるため循環している。そのまま同じことは出来ないと思うが参考にし、今後に繋げて欲しい。

市長：

生ごみを別途集めて、資源として再生可能エネルギーを生み出すかがポイントである。バイオガス、バイオマスで油を作る。あるいはガスから電気を作るプラントをごみの収集体制の中に組み込む。油を使って市民プールの温水プールの水を集めるのに使うなど、エネルギーを回していく体制を作りたい。来年度に道筋をつける取り組みを進めていきたい。

<3>高齢者、障がい者のごみ出しの支援について

参加者：

具体的にどのように進めていくかを知りたい。例えば、ホームページを調べると苦情処理の窓口がわからなく、市役所にも窓口がない。どの様に市民の意見を伝えていいか、わからなかった。苦情意見を出すような窓口を作っていただきたい。そうすれば、色々な意見を集められのでは。

市長：

現状のホームページが分かりにくく、複雑なものになっている為、作り直そうとしているところである。窓口に関しては、2年後に元の庁舎に引っ越す予定である。その時に窓口の有り方を大幅に見直そうとしている。基本的に、インターネット等で事前に予約してもらい、市役所に来られた時には皆さまをお待たせしないような仕組みにしていこうと考えている。また、障がいをお持ちの方に対する窓口を別途設けるなど不便のないように考えていきたい。ごみ出し支援は、実証事業と書いてあるが、事前に大きなごみが出る場合に、インターネットを通じて予約することでお手伝いすることなどが考えられる。

<4>行政の考え方について

参加者：

行政は、一律に考えるのをやめないと限界が来ると思う。私は、2人暮らしのため、1週間に1度ごみを出さなくても問題はない。また、統計を見ても燃やすごみの比率も家によって違うと思う。一律で対応しない方法として、例えば、資料は、紙で配布されているが、ネットからダウンロード出来ると言われれば問題はない。そのような一律ではないような、発想を変えることが大事である。

市長：

直接的な回答にはならないが、LINEを使ってやろうとしていることは、そのような発想の一環である。セグメント配信というものがあり、その人が欲している情報をその人向けに行政から発信することである。例えば、行政で言えば、乳がんの検診率が低いため、検診の適正年齢が来たタイミングで対象者にSNSで情報を伝える。市からすれば、郵送費用削減、良いタイミングで情報を伝えられるため、検診率の向上が期待される。

AIやICTの進歩により、ごみの収集も皆さんに合わせた収集が早晩できるようになるだろうと思うし、効率的にごみを減らしながら集められると信じている。そういう近未来社会を目指して仕事をしていきたい。

<5>ごみの収集量について

参加者：

ごみの収集日が3回から2回になったために、ごみの収集量が減ったのか疑問である。

スーパー等でのトレーの使用を禁止するなど規制した方が良い。

家庭のごみが減ったのであれば、もしかしたら周辺の船橋市や公共施設、駅のごみ箱に持っていつているのではないか。

市長：

ごみは減っているが、減ったという総括していいかは難しいところである。ごみを減らして環境に優しい街をつくり、そこからエネルギーを生み出すのであれば、投資をする価値がある。企業によってはビニール袋を配らないところもある。スーパーでは、ビニール袋が有料になっているところもある。本当にごみを減らすのであれば、市川市ではやっていないが、ごみ袋を有料化する必要がある。ごみの処理に、コストが掛かっていること示すことで、ごみを出すのにお金が掛かるのであれば、減らそうという動機付けが期待できる。様々な制度を見直し、皆でごみを減らすという覚悟が大事である。

<6>ごみの地産地消について

参加者：

ごみの地産地消を進めた方が良い。ごみが発生した場所で処理することが大事である。

地元で処理する小さな施設作り、コンポストを設置し、そこに各自が生ごみを運ぶ。ごみ処理に参加することで、ごみを少なくしようという意識を向上させることが重要である。紙おむつが問題としてでているが、私が子どもだったころは、布おむつであった。

また、50年前に大西洋がパルプくずでいっぱいになるということが指摘された。紙おむつをどう処理するかではなくて、それ自体を減らすことが必要である。

市長：

地域で出したごみがどのように資源に変わり、自分たちに戻ってくるのがわかれば、ごみを減らす努力もできるし、ごみを資源として出しがいもある。啓蒙活動をする上で良いメッセージである。私の時代も布おむつであった。紙おむつを資源として使うという取り組みも始まっている。いずれにしても資源を循環させる流れである。ごみを資源化させ地域に還元していく取り組みを進められたらと思う。

<7>生活弱者に対する支援

参加者：

重い障がいをもった人は分別をすることすら難しい。また、足元が弱い方は、マンションの下にごみを運ぶのも難しい。今、市川市では、生活弱者に対する支援をやっているのかを知りたい。

市長：

どのような形で支援するのが望ましいか意見をしっかりと受け止めたい。早急に困っている人たちの対応をしていきたい。困っている方々が分別をしなくて出せる仕組みも考えていかななくてはならないと感じた。

<8>戸別収集について

参加者：

高齢者は、ごみ集積所へごみ出しをすることが難しいため、戸別収集に関心がある。市での戸別回収は、委託業者をお願いしなくてはいけなく高額である。都内では、5か所の区が戸別収集を実施しているため、市川市でも、戸別収集を検討しているのかを知りたい。

市長：

完全な戸別収集は難しく、多くの費用を皆さんにご負担していただかないと難しい。ごみを資源としてエネルギーに変え、それを売電し、収集の費用に回すという循環が出来れば、細かい収集ができると思うが、戸別に集めると多くの費用がかかる等、課題は多い。いずれにしても莫大なコストがかかるため、大いなる研究工夫が必要である。

<9>スーパーのレジ袋を活用したごみ出し、災害ごみの受け入れについて

参加者：

以前のようにスーパーのレジ袋をごみ袋として出せないのか。1人、2人暮らしで共働きだと20リットルの袋にもなかなかたまらない。また、クリーンセンターの規模の縮小は、ごみが減るという前提で検討されているが、自然災害のとき、災害ごみが増えて、縮小したクリーンセンターで対応できるかが懸念である。規模を縮小するのであれば、想定外が起きることを考える必要がある。

市長：

スーパーのレジ袋でごみ袋を出すことは合理的な話ではある。マンションに住んでいる一部の方は集合ごみ袋に入れている方もたくさんいる。集合住宅の方と戸建の方で、便利さ、不都合さが変わっているなのでそこは考えていきたい。

災害時についてですが、災害協定を色々な自治体と結んでいる。また、地震が起きた場合、大型ごみをどこに置くかの議論をしており、シミュレーションをしている。

もしもの時にごみが街中に溢れかえると衛生上の問題が起き、2次被害の可能性もある。そのことも含めクリーンセンターのリニューアルをしなくてはならない。